

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部経済学科		氏名	浅利一郎	
講義コード	2372011010		講義名	マクロ経済学Ⅱ	
開講曜日	月曜日	9・10時限	専門科目		
授業回数	27回	休講回数	3回	補講回数	回
			受講登録者数	45人	

成績評価に際し注意した事項：

本講義は、通年4単位の授業であるために授業の区切りで試験を行い、合計4回の試験の総合点で成績を評価した。

報告内容：

本講義は、通年4単位の授業で、内容的には、マクロ経済学Ⅰの基礎理論を修得していることを前提に、経済成長や景気変動という国民経済の変動すなわち、マクロ経済のダイナミズムの理論を学ぶことを目標としていた。また、その際、マクロ経済動学の数学的方法の習得も不可欠であった。

学生による授業評価アンケートの回答者については、受講生45名中回答者20名で回答率47%であり、実は、回答者の数は4回の試験を受け、この授業の単位を取得した者の数をわずかに下回る。本講義は、通年4単位の授業あり、途中で脱落・放棄した学生もいる。この意味で、本講義を受講し単位を取得した学生は、動学の数学的方法とそれに基づくマクロ動学理論の理解と修得によく頑張ってきたと思う。本講義を、がんばって受講し単位を取得した学生の授業評価結果としては、本講義の目的、方法等を理解してもらっていると考えている。

授業評価アンケート結果から満足度が相対的に低い項目は、「Q12 授業の難易度」と「Q6 授業の進度」である。これは、講義内容は難しく授業の進度が速いということであろう。学生からの要望としては理解できるが、本講義が、学部レベルで経済理論を学ぶ上で最も難易度が高い講義であることを反映しているとも言えるのであって、内容やレベルを下げれば「授業改善」になるというものではない。

もちろん、授業の進度の問題を含めて、教授方法、教材などで工夫や改善が必要であることはいうまでもないが、現在の授業スタイルはそうした工夫・改善の一つの到達点である。

平成21年度は、前期ゼミスターでこの講義（4単位）を行うが、授業方法、教材提示などの面で、いくつ工夫・改善をおこないたいと考えている。

最後に、平成20年度は、公務との関係で休講した授業を補講で補えなかったが、平成21年度はそのようなことがないようにしたい。